

- P2 男女共同参画審議会委員を募集
- P4-5 4月26日から児童福祉週間
- P5 狂犬病予防集合注射
- P8 暮らしの便利帳を配布

発行/京田辺市  
〒610-0393京都府京田辺市田辺80  
☎(0774)63-1122 FAX(0774)63-4781  
HP <http://www.kyotanabe.jp/>

# 京たなべ



京田辺市は、公式ツイッターを運用しています  
<http://twitter.com/citykyotanabePR>

## 平成25年度 施政方針

# 「元気で魅力ある京田辺」 チャレンジプラン達成へスピードアップ



2月20日、石井市長が平成25年第1回京田辺市議会本会議で「施政方針」を述べました。  
2期目の任期が折り返しの年を迎える市長は、就任時に掲げた5つのチャレンジプラン達成に向けスピードアップを図り、政策理念である「未来のふるさと京田辺の創造」と市の都市像である「緑豊かで健康な文化田園都市」の実現へ取り組むことを誓いました。  
また、市職員が個々のマン

パワーの向上に取り組むとともに、市役所一丸となってチームワークを発揮できるよう、自らが先頭に立って「一歩前への精神」で率いていく決意を新たにしました。  
その一部を1・2面で紹介します。主要施策などは2面のほか、今号に折り込んでいる予算特集号でお知らせしています。  
【施政方針の全文は、ホームページ「こんにちは市長です」に掲載しています】

## 基本認識

国内外で多くの課題がある中、新政権による景気対策を柱とした政策に期待が高まっていますが、国民生活の先行きには、不透明な部分もあると認識しています。

そうした情勢の中、市南部地域などで新たな街並みの形成が進み、今後も子育て環境の整備を進める一方で、今春に同志社大学のキャンパスが再編されることによる本市への影響を注視しながら、大学との連携強化に向けた取り組みを進めなければならないと認識しています。  
また、集中豪雨や大地震発生の懸念が高まっていることから、自

## 基本方針

地方自治体では、長引く不況によって財政状況が極めて厳しい中、複雑多様化する市民ニーズと権限移譲に対応しながら、地域性を生かした個性豊かなまちづくりを進めなければなりません。  
今日まで「安全・安心」を最優先に、子育て支援・同志社大学と

局や関係機関がしっかりと連携していくことが重要であると考えています。  
以上の課題を認識し、「誰もがふるさとのように感じ、住み続けたいと思えるまち」を目指し、元気で魅力あるまちづくりに努めてまいります。

平成25年度の予算は、さまざまな財政需要が見込まれる中、社会情勢の変化を捉えつつ、既存事務事業の見直しや収納率の向上による財源の確保を行いました。その一方で、単に単年度の予算として考えるのではなく、10年、20年先の京田辺を見据え、5つのチャレンジプランの総仕上げに向け、アイデアと工夫を凝らした積極的な予算編成を行いました。その結果、一般会計予算では過去最大の233億円となったほか、特別会計を含めた総計が387億3千万円となりました。

## 一般会計予算編成 過去最大233億円



続きは2面へ

## PM2.5 府が注意喚起

大気中に漂う微小粒子状物質（PM2.5）による人の健康への影響が心配されています。京都府は、PM2.5の1日平均が一定値を超えると予想される場合、みなさんにどのような注意喚起を行います。注意喚起情報は、府ホームページで確認できます。

◆京都府ホームページ◆

(<http://www.pref.kyoto.jp/taiki/1111111.html>)

なお、測定結果は、環境省の大気汚染物質広域監視システム・そらまめ君 (<http://soramame.taiki.go.jp>) で公開しています。

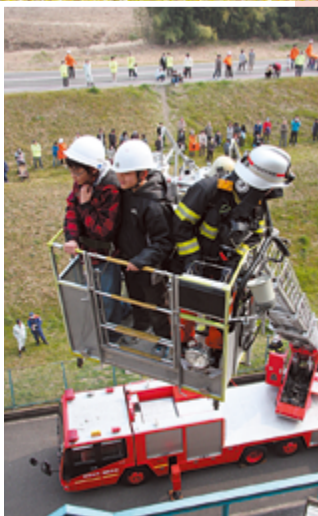
問合せ先＝▼山城北保健所 (☎ 21-2913)  
▼環境課 (☎ 64-1366)

### 注意喚起する内容

- ▽屋外での活動を控える
- ▽屋外での長時間の激しい運動を減らす
- ▽屋内では換気や窓の開閉を最小限にする
- ▽呼吸器・循環器系疾患のある人、高齢者、子どもは、体調によって慎重に行動することが望まれます

# 住民同士で防災カーブ

## 地域自主防災組織が地震・火災訓練



①河原公園で行われた訓練②高層マンションからはしご車で救助される子どもたち

東日本大震災から2年が経過した今年3月、震災を教訓に各地区で自主防災訓練や消防団の訓練が行われました。  
10日、東地区にあるサンロイヤル新田辺アカデミアでは、マンシヨンの自主防災会が地震を想定した訓練を行い、住民らが参加しました。

訓練では、地震が発生した火災から逃げ遅れた場合を考え、消防署によるはしご車を使った救助が行われました。要救助者役の子どもたちが助けられると、周囲からは歓声が上がりました。  
また17日に河原区自主防災会が行った訓練には、地域住民約100人が参加。救命講習や消火器の取り扱い体験コーナーが設けられ、子どもから大人まで正しい手順を確かめながら、消火活動を学びました。